

# KEM News Letter 4号

2017年度 第21回サマーセミナー及び第19回ハンズオンセミナーが開催されました



## KEM第21回サマーセミナー及び第19回ハンズオンセミナーが開催されました

2017年8月31日（木）に東京・秋葉原コンベンションホール2Fにて

サマーセミナー

テーマ：「MTA、そしてバイオセラミックス  
講師：須藤 亨（宮城県開業）「材料工学から考えるMTA」

岡口 守雄（東京開業）「MTAが可能にした  
歯髄・歯牙保存の最前線」

吉松 宏泰「バイオセラミックスってなあ  
に？」（講演順）

協賛：トロフィー・ラジオロジー・ジャパン  
株式会社

参加者：168名

ハンズオンセミナー

テーマ：「MTAを比較しよう！」

国内で発売されている6社のMTAセメントを  
参会者全員に練和とレジンブロックへの充填体  
験をして頂きました。

参加者：48名

協賛企業：デンツプライシロナ、GC、ペント  
ロンジャパン、ヨシダ、モリタ、茂久田商会

関東歯内療法学会(KEM) 第19回ハンズオンセ  
ミナー、第21回サマーセミナーを受講して

福島県開業 中村 慎介

8月31日午後2時より関東歯内療法学会主催  
第19回ハンズオンセミナーが秋葉原コンベンシ  
ョンホールで開催された。毎回KEMはユニークで

とても気になるトピックをテーマに行われるの  
で、いつも企画をたのしみにしている。前回の  
「Ni-Tiファイルを体験しよう」は各メーカーの  
Ni-Tiファイルを比較するという個人ではなか  
なかなできない企画であった。今回は臨床家が最も  
気になる材料の1つであるMTAのハンズオンで  
あった。「MTAを比較しよう」というテーマで

現在日本で販売されているMTAを実際に練和、充填し一度に比較できる大変貴重なハンズオンであった。

はじめに各メーカーから20分ほど製品の特徴、操作方法などの説明を受け、MTAを練和、充填するという流れで実習は進んでいった。今回比較出来たのは、デンツプライシロナの「プロルートMTA」、GCの「NEX MTAセメント」、ペントロンジャパンの「エンドセムMTA」、ヨシダの「MTAアンジェラス」、モリタの「BioMTA」、茂久田商会の「MTAプラス スーパージェル」の6社6つのMTAであった。

各メーカーの練和性、操作性、色調、硬化時間など商品の違いを体験することができ、とても有意義なハンズオンセミナーであった。

午後5時から第21回サマーセミナーが開催され、「MTA、そしてバイオセラミックス」というテーマでこの分野で著名な3名の先生の講演であった。宮城県開業の須藤享先生は「材料工学から考えるMTA」としてポルトランドセメントの物性や特性などを解説して頂き、現在販売されている7社のMTAの特性を踏まえて症例に応じたMTAの選択を講演して頂いた。次いで東京都開業の岡口守雄先生は「MTAが可能にした歯髄・歯牙保存の最前線」としてMTA、CBCT、マイクロスコープを用いて過去には困難であった歯髄、歯牙の保存にそれらが有効で予後が良いかを実際の治療動画と長期予後をも多くの症例を供覧しながら講演して頂いた。最後に東京都開業の吉松宏泰先生が

「バイオセラミックスってなあに？」としてMTAとバイオセラミックスの違い、世界で発売されているバイオセラミックスについて解説し、それを使用するに至った経緯と有用性を実際の症例とともに講演して頂いた。

現在MTAの有用性は言うまでもないが、更に深く知識を得ることができ大変有意義で素晴らしい講演であった。平日にも関わらず多くの受講者で、総合討議も熱いディスカッションがかわされMTAへの関心が大きい事がわかり、盛会であった。

講演終了後には同会場でビアパーティーがあり、演者の先生方とお酒を飲みながら沢山のお話ができ、また様々な先生方と交流、ディスカッションできて本当に有意義な研修会であった。

アンケートより抜粋（回収53枚）

**Q今回のサマーセミナーに参加されていたか？**（満足48枚、普通2枚、不満足3枚）

- ・各社のMTAを一度に扱えて、各社の練り方・具合を確認できた。
- ・MTAにつきまして、臨床でどの種類を使うか考えていたため、参考になった。
- ・6社全てに違いや近い点があり、いろいろと勉強になって良かった。
- ・商品によって、操作性に差があることが知れた。
- ・各社MTAの特徴を確認した上で、実際に触れてみてそれぞれの特徴、差を体験できたことは大変良かった。
- ・各社MTAの特徴を確認した上で、実際に触れてみてそれぞれの特徴、差を体験できたことは大変良かった。

**Q 今回の講演の内容は、今後の診療に役に立ちますか？**（満足41枚、普通7枚、記載なし5枚）

- ・ 歯髄保存の重要性を再認識できた。
- ・ MTAの物性、実際の使用法が聞いて良かったです。
- ・ 色々な方面からの講義がお聞きできて良かった
- ・ MTAの利用範囲の拡大、使う頻度が上昇しそうです。
- ・ 根管治療の成功率を上げたい。
- ・ 歯髄を残すトライをしても良いけど、術後疼痛が出現するのではないかと思い、出来るかどうか
- ・ MTAの活用により、歯髄の保存、歯の保存につながると思いました。

**Q 今回よく理解できた事は何でしたか？**

- ・ MTA、その物理学的特性、使い分け、可能性。
- ・ 各種MTAの性質、特徴、操作性の違い。
- ・ 感染を徹底して除去するという事。
- ・ MTAの適応、性質と歯髄保存の可能性。
- ・ MTAの硬化機構、感染根管への応用、各社の相違点。

- ・ Direct Pulp Capping。
- ・ 診断は難しいこと。
- ・ MTAの製品によって特徴・特性が様々であり、症例によって使い分けが出来そうなこと。
- ・ MTAの臨床症例がみれて良かったです。

**Q 今回あまり理解できなかった事は何でしたか。**

- ・ 歯髄をどこまで残せるかの判断基準。
- ・ 根尖病巣があっても歯髄保存し、治療することに驚きました。
- ・ 診断；プルプルしている（？）生きていれば良いのか。診断の根拠がわかりにくい。
- ・ MTAの粉液比。
- ・ バイオセラミックスについて。
- ・ プロルート以外のMTAのエビデンス。
- ・ 失敗症例が多いのでは。
- ・ 止血方法。

**2018年度第17回学術大会・総会について**

日時：2018年1月28日（日）9:30~16:45

場所：東京千代田区

秋葉原コンベンションホール 2F

大会長：川島 正（日本大学松戸歯学部）

実行委員長：小塚 昌宏（日本大学松戸歯学部）

基調講演

講師：辻本 恭久（日本大学松戸歯学部）

「マイクロスコープとCBCTを有効利用する根管治療-Effective Use of Microscope and CBCT for Root Canal Treatment-」

小嶋 壽（東京都開業）

「歯内療法もがっちりとしっかりと！」

鈴木賢策賞受賞講演

長尾大輔

「複雑な問題を抱えた歯に対する再根管治療-マイクロスコープを用いた新たなアプローチ-」

テーブルクリニック 8 演題

詳細Webにて

関東歯内療法学会のホームページをご覧ください。

<http://jea-kantoh.jp/index.php>

皆様からのご意見ご希望などをMailにてお待ちしております。

事務局アドレス：[golden-circle@nifty.com](mailto:golden-circle@nifty.com)